カルメル
霊性センターニュース

フラ・アンジェリコ画　「キリストの磔刑」

2021 年 3 月　　373 号

3月号　【教会からの巻頭のことば】

あなたがわたしたちよりもずっと深く愛しておられるこの世界の中で、
　わたしたちはすざましい速さで突き進み、
　　自分たちには力があってなんでもできると思い込んできました。

貪欲に利益を求め、様々なことに忙殺され、
　急き立てられ混乱していました。
あなたの呼び声を聴いても立ち止まりませんでした。
戦争や地球規模の不正義を前にしても目を覚まさずに来ました。
貧しい人の叫び声にも、
　無残に傷つけられた地球の声にも耳を傾けませんでした。

病んだ世界の中で、自分たちはいつだってまともだと考え、
　無関心でい続けてきました。

荒波にもまれる今、わたしたちはあなたに切に願います。
『主よ目を覚ましてください』」

（教皇フランシスコ『パンデミック後の選択』から
2020年3月27日特別な祈りの式「なぜ怖がるのか」から）

目次

教会からの巻頭の言葉・・・・・・・・・・・・・・・・１

目次・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・２

心の泉・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・３

カルメル会の企画案内・・・・・・・・・・・・・・・２５

東京・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・２６

カルメル会オンライン四旬節講話シリーズ・３１

京都・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・３２

キリスト教放送局 FEBC のご案内・・・・・・・・・・３４

諸所の企画案内・・・・・・・・・・・・・・・・・・３５

通信深読お申込みのご案内・・・・・・・・・・・・３９

郵送お申込みのご案内・・・・・・・・・・・・・・４０

あとがき・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・４１

心の泉

宇治カルメル会修道院

第三巻

第三十六章　人間の空しい判断

１　主

《子よ、あなたの心を主にゆだね、良心があなたの敬虔と無罪とを証明するかぎり、他人の判断を恐れるな。この状態で苦しむことは、有益で良いことである。心の謙虚な人、自分を忘れて神に信頼する人にとって、困難なことではないだろう。むだ話をする人が多い。彼らの言葉は、信用する価値がない。パウロは、主のために、すべての人を喜ばせ、「すべての人にとってすべてとなろう」(一コリント９・22)と努め、「他人から非難されることを意に介さなかった」(一コリント４・3)。

２　聖パウロにならって

パウロは、他人の模範となり、救いを得させるために、真命(しんめい)を顧みなかった。他人から非難され、軽蔑されることをまぬがれることはできなかった。そのために彼は、すべてを知る神にすべてをゆだねた。そして、自分の悪口を言う者、根拠のなりそしりをする者、それを勝手に言いふらす者に対しては、忍耐と謙虚とをもってみずからを守った。それでもときどき、沈黙が誤解されて、弱い人々のつまずきとなる場合には、弁解の口を開いた。

３　目を神に向けなさい

「あなたは死ぬべき人間を、なぜ恐れるのか?」(イザヤ51・12)。人間は、今日生きていても、明日はもういない。神をおそれなさい。そうすれば、人間の脅迫を恐れないだろう。人が侮辱し脅迫しても、あなたに対してそれ以上何ができるだろう。そういう人は、むしろ自分に損害をかけるばかりで、どんな人間にしろ神の裁きをのがれられない。あなたは絶え間なく神を仰ぎ、「論争するな」(二テモテ２・14)。たとえ負けて、不当なはずかしめを受けていても、それに憤り、忍耐を失い栄冠を取り逃がすな。むしろ、あなたをはずかしめと侮辱とから救い上げ、「おのおののおこないに従って報いる」(マタイ 16・27、ローマ２・6)力ある私に向けて、天に目を上げなさい。》

２０２１　聖ヨセフ年 － ３　　四旬節

「あなたはちりであり、ちりにかえっていくのです」・・・
頭から灰を受け、回心を促されてはじまったコロナ禍の中で、
3月19日に「教会の保護者」聖ヨセフの祝日を祝います。

教会が「聖徒の交わり」であるのは、
教会に諸聖人がいるためだけでなく、
教会が聖なるものの交わりだからです。
・・・この聖徒の交わり、聖なるものの分かち合いの
中では、　だれもが独り占めすることなく、
すべてのものを他者と分かち合います。
わたしたちは神のうちに一致しているので、
はるか遠いところの人々、自分では決して行くことが
できない所にいる人々のために
何かをすることができます。
なぜなら、わたしたちすべてが神の救いの計画に
開かれた者となるように、彼らとともに、彼らのために
神に祈り求めるからです。

～教皇フランシスコ～

十字架上のキリストは、
私たちのことを愛していない人をも
愛するよう教えています。

～教皇フランシスコ～

神の愛のために元気を出しましょう！
平凡な生活での小さな“実行”を！

愛は空想の産物であってはなりません。
実行で証明されなければならない・・・

とアヴィラのテレサは呼びかけます。
よい四旬節を！

伊従　信子
ノートルダム・ド・ヴィ

創造主への賛美（40）

九里（くのり）　彰

私どもが自分自身として何もよいものを持たず、惨めさと無にすぎないということは、ほんとうに大きな真理です。（同上）

私たちが、この真理を心底悟らない限り、本当の意味では「創造主への賛美」を捧げることはできないのではないだろうか。

というのも、私たちの心の片隅に、自分は大したものだという、自分を誇ろうとする気持ちが隠れひそんでいるかぎり、神ではなく、自分を賛美しようとする誘惑、つまり、「自己賛美」の誘惑からまぬがれることはできないと思われるからである。そしてこの矛盾を、私たちはうすうす気づいているのではないだろうか。

その意味では、すでに見た「ファリサイ派の人と徴税人」のたとえ（ルカ 18・9-14）のファリサイ派の人のような心の状態に、私たちもなっているということである。「私は人から後ろ指をさされるようなことは、何一つしていない。それどころか、これだけの良いことをしてきた。私は決して罪人ではない」と。

そこでは、「自分が」これだけの良いことをしたという意識が支配し、その意識から一歩も脱け出せないでいる。それゆえ、そうしていない、あるいはそうできない他者を見下すのである。上述のたとえは、まさに「自分は正しい人間だとうぬぼれ、他人を見下している人々に対して」なされている。

ところが、よくよく見れば、「良いことをした」「良いことができた」のは、自分の力ではなく、すべて神の力であり、神の恵みだったことに、ある時、人は気づくのである。

私たちの存在そのものからして、そうである。神から、―生物学的には両親を通してだが―、この世に命を受けたのであって、私たちが努力して獲得したものではない。生物学的特徴、人種や体格、健康や容姿なども然りである。生得的なものであり、与えられたものにすぎない。

その後の成長も、家庭環境、教育環境、社会環境など、すべて私たちの努力を超えたところで起きている。獲得した何らかの能力や知識や技術も、―それなりに努力したであろうが―、その努力する気力や体力等も含めて、すべて神からの恵みだということである。　（続く）

十字架の聖ヨハネのこぼれ話（155）

ホセ・ヴィセンテ・ロドリゲス o.c.d.

私たちが訪ねるとのことです②

もっとも雄弁な証言は、出来事の主役となった、彼に最も親しかった人々によってなされています。

ヘロニモ修士は、こう証言しています。「彼は世俗の人を訪ねるために、修院長であったときでさえ、決して修道院を出ませんでした。彼がグラナダで修院長であった時、管区長代理である三位一体のディエゴ神父が、グラナダにやって来て、修院長たる者は、特に市議会議長や裁判官たちを訪問しなくてはならないと言ったのを知りました。ある日、彼は私に言いました。「あなたもマントを取りなさい。訪問することは力になると言われていますから」。私たちは、何人かの裁判官や市議会議長の家を訪問しました。彼は、きわめて丁寧に彼らに敬意をはらいつつ、クリスマスの挨拶をしました。神が彼に上品さや魅力を与えているように思われました。市議会議長にしばしば訪問できないことをお詫びし、それは、主に彼をゆだねてしまわないという義務（訳注：自分が直接訪問するという義務）を果たすことを忘れてしまったのではなく、修道者としての隠遁の義務を果たすためであったと言いました。市議会議長は、そのような気遣いに感謝すると答え、さらにこう言いました。私たちに対する儀礼のためであれば、神父様方は、私たちの主や神父様方の義務に対して、今果たしているように、礼義をつくしてください。私たちは、今抱えているたくさんの義務の他に、（訳注：「このような訪問があると」という意味が含まれている）、もうほとんど休む暇もありません。（ヨハネ修父は）自分たちが訪問しないからといって彼らが不満には思わないことを理解し、家を出る時、私にこう言いました。私たちの主は、私たちが、この世の人々に儀礼的な訪問をすることを望んではおらず―そういうことに気を配っている人は大勢いる―、ひたらす主なる神にのみ敬意をはらうよう望んでおられることを明らかにしてくださった。私たちは真っ直ぐに修道院に戻りました。（ヨハネ修父）が再び儀礼的な訪問をするのを、私は見たことがありません」。（続く）　（P. 九里訳）

四旬節 第３主日

（ヨハネ２：１３－２５）

イエスは神殿の境内に入り、縄で鞭を作り、羊や牛をすべて境内から追い出し、両替人の金をまき散らし、その台を倒し、言われました。「このような物はここから運び出せ。わたしの父の家を商売の家としてはならない」。怒ったのはユダヤ人たちでした。「あなたは、こんなことをするからには、どんなしるしをわたしたちに見せるつもりか」。

イエスはなぜこのような激しい行動をとったのでしょうか。イエスにとって神殿は父の家です。イエスは幼い頃から、両親とともに毎年神殿に参り、敬虔な祈りを奉げていました。十二歳の時にはしばらく滞在し、「わたしが自分の父の家にいるのは当たり前」とまで言っています。イエスは神殿を愛し、心から父に祈っていたのです。

今日の福音の最後にこう書かれています。「イエスは、何が人間の心の中にあるかをよく知っておられた」。また、神殿の境内に入ってきた時、イエスは「牛や羊や鳩を売っている者たちと、座って両替をしている者たちをご覧になった」と書かれています。つまり、イエスは、何が彼らの心の中にあるのかをご覧になったのです。

神殿において奉げものの動物は不可欠でした。また、献金のため、ローマの貨幣をユダヤ人のお金に両替する必要がありました。動物販売所や両替所があるのは、イエスも認めていたのではないでしょうか。しかし、彼らの心の中にあるものは、神殿をこよなく愛するイエスにとって黙っていられなかったのでしょう。彼らの心の中にあるものは商売の心だったからです。心を神様に向けて祈るための場所で商売人が仕切り、礼拝に来る純真な人々に動物を不当に高く売り、手数料を取ったりして、儲けていたことに我慢がならなかったのではないでしょうか。神と人との出会いの場所で、金儲けの心はそぐわないのです。

イエスは、このとき、新しい神殿について言及されます。「この神殿を壊してみよ、三日で建て直して見せる」。妨げの多い神殿ではなく、もっと多くの人々が、より身近に「霊と真理をもって父を礼拝する」ことができるよう、新しい奉げものと新しい神との出会いの場を用意してくださるのです。

十字架上に命を奉げられるイエスは、どんな奉げものよりも尊い完全ないけにえです。イエスはその場所で、私たちが「霊と真理をもって父を礼拝」できるようにしてくださったのです。罪を償っていただき、復活のイエスと出会わせてもらい、心に「霊」を吹き込んでいただくことで、私たちは真実に父の子供としての礼拝ができるのです。今日の福音は、人々が真実に神と出会うための神殿を願い続けていたイエスの熱意みなぎる行動だったのです。私たちは、もうエルサレムに巡礼しなくても父を礼拝することができます。十字架につけられ、復活したイエスを礼拝しながら、純真な心で父を礼拝することができるよう、四旬節の心の清めに励んでいきましょう。

（今泉健 神父）

四旬節 第４主日（B）

（ヨハネ３：１４－２１）

「神は、その独り子をお与えになったほどに、世を愛された。
独り子を信じる者が一人も滅びないで、永遠の命を得るためである」（３：１６）

教会は本日、「レターレ(Laetare。喜び)の主日」とも呼ばれる四旬節第４主日を祝います。この日は、四旬節の中間地点であり、四旬節後に訪れる「栄光に輝く出来事」を思い起こさせてくれます。私たちは、主の復活を待ち望んで喜びます。神の恵みとあわれみと救いの神秘をさらに深く味わうことに私たちは招かれています。

モーセが青銅の蛇を旗竿の先に上げたように、イエスも十字架に上げられて釘付けにされたことを、私たちは福音を通して学びます。人類に救いをもたらす神のご計画として、イエスも「上げられる」、すなわち十字架につけられねばなりませんでした。この青銅の蛇は、全世界の罪を背負われたイエスの十字架の前触れでした。十字架に上げられたあわれみ深い救い主に自分の思いと心を上げて信じれば、私たちは永遠の命を見出すことができます。真の信仰と希望のうちにキリストの十字架と一致しながら自分たちそれぞれの十字架を担うならば、キリストのうちに救われます。「独り子を信じる者が１人も滅びずに永遠の命を得る」という信仰は、主の教えや行いの真理を受け入れるだけでなく、主を神の独り子として認めることを意味します。主の命そのものに参与し、ミサに与ってイエスの御体と御血をいただくことです。イエスにならうことで、私たちは主と似た者となります。

冒頭に記載したヨハネ３章１６節は、「福音の中の福音」と呼ばれています。これこそ、キリスト・イエスを通じた救いの中心的なメッセージです。福音のエッセンスとも言えます。神から私たち全員へのはかり知れないほど大きな愛を示しています。神は、私たち１人ひとりに対し、固有の愛を注ぎ、私たちの協力を得ながら救いたいと望んでおられます。神の愛は、無条件であり、普遍であり、赦しとあわれみに満ちています。私たちは、この神の愛の特質を模範としてならい、私たちの愛を他者と分かち合うことに招かれています。

(Sr.Paulina)

四旬節 第5主日

（ヨハネ１２：２０－３３）

今日のみことばは、エルサレムの祭りに来ていた大勢の群衆が、イエスが来られると聞いて出迎えた後の話です。前半冒頭、祭りのとき礼拝するためにエルサレムに上って来た人々の中に、何人かのギリシア人がいたとありますので、外国人も礼拝するためにエルサレムに来たこと、それだけではなくそのギリシア人がイエスに会いたいと願って、弟子に取り次ぎを願ったことが語られています。

そして願いが取り次がれていきます。フィリポからアンデレ、アンデレとフィリポが一緒にイエスの元に。イエスが訪れるところで普段から起こっている１コマでしょうか。何れにしてもイエスの言葉と業を知った人々が、イエスの元に殺到していたのですね。四旬節を歩んでいる私たちですが、この時代の人々の様に熱心に神に心が向かっているでしょうか。祈りと断食そして悔い改めの時、私たちはどの様に歩んでいるでしょうか。

さてイエスは、人の子が栄光を受ける時が来たと話されます。これは未来の栄光で、私たちの救いのため十字架に掛けられ、亡くなることで現される栄光です。一粒の麦が地に落ちて死んで多くの実を結ぶ。イエスが歩まれた場面を想い巡らしてはと思います。

神の子となった私たち。それは仕える者です。私たちがイエスに仕えようとするなら、イエスに従わなければなりませんね。イエスは「わたしに従え」と諭して下さいます。イエスに従うことによって、イエスがおられるところにいる様になり、天の父なる神はその人を大切にしてくださいます。私たちがその様な者となることができます様に。

イエスが「御名の栄光を現してください。」と言われた時、天から声が聞こえました。「わたしは既に栄光を現した。再び栄光を現そう。」と。これは父なる神が人々のために仰った言葉です。父なる神はイエスのこれまでの歩みの上に、栄光を現わされましたが、再び栄光をお現しになることを語られました。イエスが地上から上げられる―すなわち十字架につけられて人々の救いのためにご自分の命を捧げられることで、父なる神は、その栄光をお現しになります。

来週は受難の主日そして聖週間へと入ってゆきます。イエスの受難を深く心に刻み、父なる神の栄光を眺め、想いながら、ご復活に向かって歩んでゆきましょう。イエスのもとへ引き寄せていただいた私たちが、神の子として相応しく歩むことができます様に。神の恵みと祝福が、皆様の上に豊かにあります様に。

（Fr. 古川利雅）

枝の主日（B）

（マルコ１１：１－１０、１５：１－３９）

教会は、本日枝の主日を祝います。この日は受難の主日ともいわれています。枝の主日で聖週間に入ります。償いと救いをもたらす出来事を思い起こし、再現する時です。枝の主日の典礼は聖マルコの福音から二つの箇所を示しています。

本日の福音の最初の部分は、イエスが人々から受けた王としての歓迎を記しています。人々はオリーブ山からエルサレムの市内までついてきました。イエスはご自分が約束されたメシアであることを一般大衆に表すために、そしてザカリアの予言を完成するために、このような行列を許されたのです。イエスは子ろばに乗ります。神のメシアがろばに乗るというのは奇妙に思えます。当時、王は戦時には馬に乗って行列して進み、平和の時にはろばに乗るのが好まれました。イエスは平和の王として聖都に入り、ザカリアの予言を完成しました。過ぎ越しの祭りの間に多くの子羊が殺されましたが、大祭司が殺した子羊は主祭の前４日行列に連れていかれました。枝の主日に、真の子羊であるイエスは盛大に行列して会堂へ連れていかれました。

本日の福音の第二の部分は、聖マルコによるキリストの受難です。キリストが経験した苦しみ、責め苦、屈辱を記しています。本日の典礼は、勝利の場面を表している一方で、特にイエスの受難、死、復活に対して私たちを準備しています。イエスが私たちのために体験したことは、私たちひとり一人に対する神の偉大な愛の具現です。更に、イエスの苦しみ、死、そして復活の神秘を自分自身と結びつけることによって、私たちは大きな解放、即ち様々な罪と奴隷の状態から喜びと自由の生活への過ぎ越しを体験します。本日の典礼は、勝利と悲劇の感覚を両方結び付けています。私たちはイエスを否定したペトロや、イエスを裏切ったユダ、自分の良心に逆らったピラト、イエスを嘲笑したヘロデなど何人かの人物のうちに自分の生活を調べてみるように求められています。私たちは隣人に対して何を行ったとしても、それはキリストに対して行っているということを思い起しましょう。ですから、隣人を愛しましょう、そして苦しんでいる人たちを心にかけましょう。

(Sr. Paulina)

いのちの言葉 ３月

主よ、あなたの道をわたしに示し、
あなたに従う道を教えてください。
（詩編 25・４）

この詩編から浮かび上がるのは、危険に身をさらされている人の姿です。彼は何としても、自分を正しく導いてくれる確かな道を見出す必要がありました。誰に助けを求めたらよいのでしょうか。

自分の弱さ、脆(もろ)さを思い知った彼は、思わず天を仰ぎ叫びます。民を最後まで見捨てることなく、砂漠の長旅を約束の地へと導いてくださったイスラエルの神に、彼は叫びます。

「神と共に歩む体験」は旅する人の心に再び希望をもたらします。神との間に新たな親密さが生まれ、たとえ自分は不忠実な者であっても、神の忠実な愛に信頼し、全面的にその愛に委ねたいと願うようになります。

「神と共に歩む」、この聖書の表現には神の救いのご計画を知り、人生を通してそれを学ぶという意味があります。

主よ、あなたの道をわたしに示し、あなたに従う道を教えてください

時々私たちは、勝手気ままに生きた後で、何か大切なものを見失ったような思いにかられ、いっそう自分の限界やみじめさに気づくことがあります。私たちも、人生の道を明確に指し示す羅針盤のような何かを見つけ、目的地への旅を続けたいのです。

この詩編は、そんな私たちを助けてくれます。神との新たな出会いを体験するように、そして、その親しい交わりに信頼を置くようにと、私たちを促してくれます。

また、自分から外に出て、愛の道を歩みなさい、と絶えず招く神の教えに従う勇気を私たちに与えてくれます。そして私たちと出会うために、神ご自身がまず先に、この愛の道を歩まれる方だと気づかせてくれます。

さらに、この詩編は、一日のあらゆる喜びや苦しみの瞬間に、私たちに寄り添う祈りとなり、私たちの歩みを前進させてくれるでしょう。

主よ、あなたの道をわたしに示し、あなたに従う道を教えてください

スイスで結婚して、４人の子どもの母親であるヘディは、み言葉を長年生きてきましたが今、重い病気で入院中です。彼女は、地上を旅立つ日も間近だと感じています。

親友のカティは語ります。「お見舞いに行く度に、ヘディが看護師さんであれ、誰であれ、周りの人にいつも注意を向けているのに気づきます。話すことも困難なのに相手に注意を傾け、その場にいるみんなに感謝し、自分の経験を話してくれます。そんなヘディは、本当に愛そのもの、神のみ心そのものです！　ヘディは友人、親戚、神父様、みんなを魅了します。神への愛の信仰からくる、その強さに私たちは感銘を受けずにはいられません」と。

キアラ・ルービックは語ります。「『聖なる旅』[1]は、神に向かう私たちの道のりを象徴的に表現する言葉です。…この一度限りの人生を一つの旅、私を待っておられる『聖なる方』に向かう『聖なる旅』にできるでしょう。…信仰を持たない人も、正しい道を誠実に歩むなら、素晴らしい人生を築くことができるでしょう。もし人生が、神のみ旨を生きる『聖なる旅』だとすれば、私たちは、日々歩み続ける必要があります。

…時には、私たちは歩みをとめ、再び過ちや怠惰に陥って後退することがあるかもしれません。そのような時、自分の失敗に落胆して、聖なる旅を続けることをあきらめずに、『もう一度やり直す』という言葉を、私たちのモットーにしましょう。…自分の能力よりも神の恵みに全面的に信頼し、私たちは再び立ち上がることができます。そして何よりも、このように生きる仲間と愛の内に一つになって、助け合いながら、共に歩むことができます。『聖なる方』イエスが、私たちの間にいてくださり、彼が私たちの『道』となるでしょう。イエスは、私たちがもっとよく神のみ旨を理解し、み旨を果たしたいという望みと、それに必要な力とを与えてくださるでしょう。そして、私たちが一致しているなら、すべてがもっと易しくなります。私たちは『聖なる旅』を歩み始める人に約束された至福を味わうことでしょう」[2]と。

主よ、あなたの道をわたしに示し、あなたに従う道を教えてください

レティツィア・マグリ

連絡先：フォコラーレ　東京 03-3330-5619/03-5370-6424　長崎 095-849-3812
E-mail:tokyofocfem@gmail.com
ホームページ：https://www.focolare.org/japan/

1　詩編 84 (83)・6 参照
「いかに幸いなことでしょう。あなたによって勇気を出し、心に聖なる旅を決意する人は」
2　キアラ・ルービック「いのちの言葉」2006 年 12 月

跣足カルメル修道会HP（International）

跣足カルメル修道会ローマ本部のホームページ http://www.carmelitaniscalzi.com の記事を紹介します。

<< **Communications**（時事通信）>>　　２０２１年１月１９日

聖ヨセフに奉献された年

聖ヨセフが普遍教会の保護の聖人に宣言されてから、150周年を迎えることを記念して教皇フランシスコは使徒的書簡「Patris Corde」(父のこころで)を発行され、聖ヨセフに奉献された年の開始を告げられました。そして今、人類が困難に直面しているこの時代に、“脚光をあびることからほど遠い普通の人々、忍耐強く行動し、日々の生活に希望を与える人々に注目するようにとの意向を示されました。

そのような人々は、人目につかず日々思慮深く生きる隠れた存在でありながら、神の救いの歴史において比類のない重要な役割を果たした聖ヨセフによく似ています。父の愛で御子イエスを愛された聖ヨセフは、思いやりがあり忠実で受容力を持った神のしもべとして、世の脚光を求めず隠れた存在であっても勇気をもって勤勉に働いた父親でした。

テレジア的カルメル会にとって聖ヨセフに奉献されたこの年は、特別な喜びの時でありイエスの聖テレジアをはじめ、神の母のヘロニモ グラシアン神父などカルメル会の著名人たちも断言したように、私たちのカリスマの重要な面を深めるために与えられた好機です。

実に、教皇フランシスコが使徒的書簡を発行された同じ日に、カルメル修道会と跣足カルメル修道会の両総長は、共同で 次のような書簡を双方のカルメル会宛てに発行しました。*“カルメル会の保護者聖ヨセフ —聖ヨセフがカトリック普遍教会の保護者と宣言されてから150周年を迎えるにあたって、カルメル修道会総長と跣足カルメル修道会総長からカルメルファミリーへの書簡”*です。

（小宮山延子訳）

糸巻き棒からペンへ(62)

現代人のためのイエスの聖テレジアの教え

エドゥアルド・サンス　OCD

「教会を守っておられる方々や説教者や学者がたのために祈ることに、全身全霊を捧げなくてはなりません。･･･このためにこそ、主はあなた方をここにお集めになったのです。これこそあなた方の召命です。これこそあなた方の仕事でなければなりません」(CE1,2 以下)。

霊魂（の救い）への情熱は、彼女の著作や同時代人の証言の中に垣間見られます。例えば、聖ドミニコのイサベルはこう証言しています。「聖女は、女性にもキリスト教の信仰を教えに行くことが許されるならば、異教の地へ、たとえ千の命を投げ出すことになろうと、教えに出かけるだろうと、しばしば言っていました」と。テレジアの兄弟たちがアメリカにいたため、コンキスタの進行や乱行についてはよく知らされていました。原住民の運命、「それらのインディオたちのことは、私に少なからぬ涙をさそいました」と書くほどまで、絶えず気遣っていました。

バルトメ・デ・ラス・カサス司教の友人が聖ヨセフ修道院の面会室を訪れたことがきっかけで、彼女や仲間の姉妹達の中に、ミッションへの特別な望みが芽生えました。彼は、報告書をもって、王や宮廷の前でインディオたちの主張を弁護しようとしていたのでした。「たまたまフランシスコ会の一人の宣教師がやってきました。神の偉大な僕、アロンソ・マルドナド師です。師もまた、私と同じように、人々を救いたいという望みに燃え立っておられました。ただ、師のほうは、その望みを実行に移すことがおできになるので、私はたいそううらやましく思いました。新大陸からお帰りになったばかりで、教えられる機会がないために滅んでいく幾万という人々のことを話してくださいました。･･･(私は)涙をたくさん流しながら、隠遁所に行き、主に向かって叫びました。･･･主のために霊魂をいくらかでもかち得るために、何らかのことをする手立てを与えてくださるよう、...懇願しました。･･･主への愛ゆえにこのこと（訳注：霊魂の救いのこと）に献身できる人々がとてもうらやましく思われました」(『創立史』1,7)。

(P.九里訳)

カルメル誌　新刊案内

2020年 冬号 No.379

《現代に生きる祈りの伝統》*******

桐生聖クララ会―新しい修道会、新しい生活
シスター・マリア・イルミナータ

****

信仰生活(再)入門(12)　聖書に学ぶ祈りの道(4)
―現代のための神のみことば、テレーズとともに②
片山はるひ

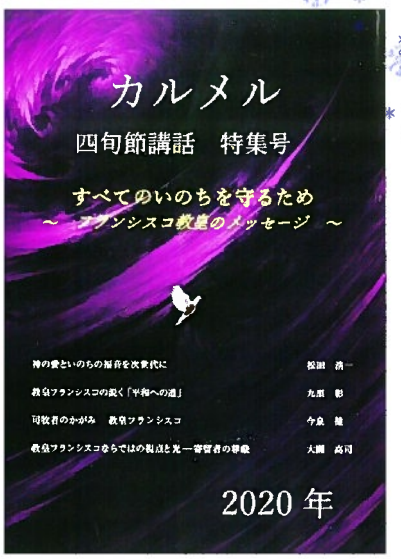
道の霊性(4)―幼い者の隠れた道　田畑邦治

キリストに伴われて季節を巡る(12)
―クリスマスの歓び　伊従信子

クリスマスのメッセージ　二〇二〇
ポーリン・フェルナンデス

カルメル会の会則に見る
アシェーシスと修道生活(12)　九里　彰

霊的研究会講義録(10)－聖書・祈り・愛について
奥村一郎



2020年 特集号
「すべてのいのちを守るため」
―フランシスコ教皇のメッセージ―

神の愛といのちの福音を次世代に
松田浩一

教皇フランシスコの説く「平和への道」
九里　彰

司牧者のかがみ　教皇フランシスコ
今泉　健

教皇フランシスコならではの視点と光
―寄留者の尊厳
大瀬高司

ご案内　　1冊520円　A5サイズ　50～70ページ

サンパウロ・ドンボスコ書店・イグナチオ教会案内所・上野毛教会信徒ホール本コーナー・各カルメル会黙想の家 他にてお求め下さい

●送付ご希望の方は、700円【520円（+送料180円)】程度の献金を下記へお振込み下さい

●年間での継続送付ご希望の方は、年会費（年5冊：春夏秋冬+特集号　計　3,500円）を下記へお振込み下さい

郵便振替:00190-4-195457　跣足カルメル修道会

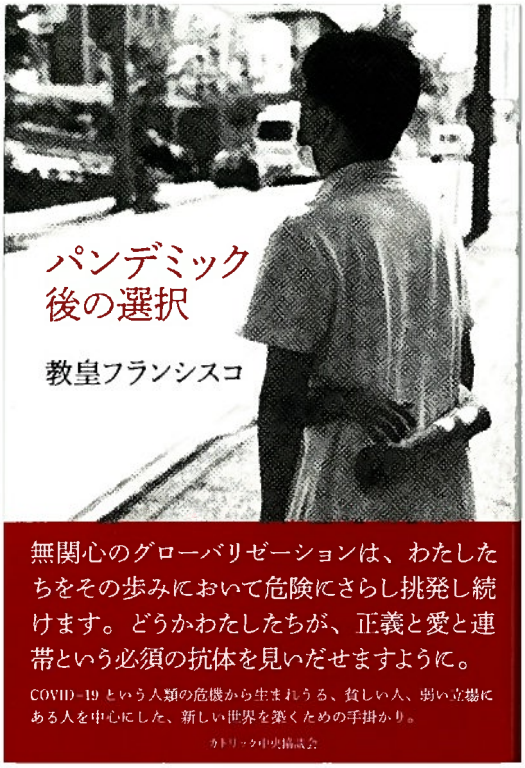
※2021年度より料金が変わります（1冊580円　年間購読3,600円）

●お問い合わせは、事務担当：内田幸子宛に上野毛修道院へ手紙かファックス、又はe-mailで。

〒159-0093 世田谷区上野毛2-14-25　Fax: 03-3704-1764

E-mail: carmelshi.jimu@gmail.com

書籍案内



『パンデミック後の選択』

著者：教皇フランシスコ
判型：四六・並製
ページ数：80 ページ
価格：本体 500 円（税込 550 円）
ISBN：978-4-87750-224-9
出版社：カトリック中央協議会

バチカン出版局より刊行された Life After the Pandemic の邦訳。パンデミックに言及する 8 つの文書を収録。高い感染リスクにさらされながらも他者に献身する人々や、収入が絶たれたり、在宅要請を守るのが難しかったりする弱い立場の人々に心を寄せつつ、困難な試練を新しい選択への好機に変えるよう励ます。単にパンデミック以前を取り戻すのではなく、連帯を示し、もっとも傷つきやすい人を中心にした社会を構築すべきとの呼びかけ。

目次・内容

- 序（マイケル・ツァーニー枢機卿, SJ）
- なぜ怖がるのか（特別な祈りの式におけるウルビ・エト・オルビのメッセージ、2020 年 3 月 27 日、サンピエトロ大聖堂前にて）
- コロナ後への備えの重要性（ロベルト・アンドレス・ガラルド氏あて書簡、2020 年 3 月 28 日付）
- 新たな炎のように（2020 年復活祭ウルビ・エト・オルビのメッセージ、2020 年 4 月 12 日、サンピエトロ大聖堂にて）
- 目立たぬ兵士たち（草の根市民運動あて書簡、2020 年 4 月 12 日付）
- 再起計画（雑誌 Vida Nueva（新しい生）への書き下ろし、2020 年 4 月 17 日）
- エゴイズム――より悪質なウイルス（復活節第二主日（神のいつくしみの主日）説教抜粋、2020 年 4 月 19 日、サントスピリト・イン・サッシア教会にて）
- ストリートペーパー関係者へ（2020 年 4 月 21 日付書簡）
- 地球規模の問題を乗り越える（第 50 回アースデイについての一般謁見講話抜粋、2020 年 4 月 22 日）
- 付録（マリアへの祈り一、二）
- あとがき

新書紹介　　十字架の聖ヨハネ理解のための

待望の書　　翻訳刊行

『十字架の聖ヨハネの霊性』

フェデリコ・ルイス師の講話

〈十字架の聖ヨハネ・霊性神学研究の第一人者〉

著者：フェデリコ・ルイス
訳者：九里 彰
判型：B6 判並製
ページ数：184 ページ
価格：本体 1,600 円+税
ISBN：978-4-8056-3918-4 C0016
発行：サンパウロ

スペインで「詩人の守護聖人」と称される十字架の聖ヨハネは、日常生活の中で神との親密な関係を生き、キリストと、隣人との愛の交わりを生きた聖人でした。自身の神体験を詩で表し、自らそれを解説し、著作として残しています。彼は決して近寄り難い人物だったわけではなく、バランスの取れた温厚な人でした。

インターネットや AI が発達する、「霊性の時代」といわれる現代において、神との出会いを生きる真の意味を、十字架の聖ヨハネの思想、生涯の中に探ることができます。

十字架聖ヨハネを正しく理解することは、霊性を正しく理解することの基礎となっていきます。

フェデリコ・ルイス・サルバドル

1933 年スペイン、バレンシア生まれ。1950 年跣足カルメル修道会入会。1957 年司祭叙階。ローマ・カルメル会国際神学大学テレジアーヌム教授。2018 年 10 月 27 日マドリードにて帰天。享年 85 歳

九里　彰

カイルメル修道会司祭。1981 年上智大学大学院哲学専攻、博士後期課程修了。1990 年カルメル会入会。1997 年司祭叙階。1999~2002 年スペイン留学。カルメル修道会 元日本地区総長代理。現在、金沢広坂修道院院長

サンパウロ

愛と英知の道

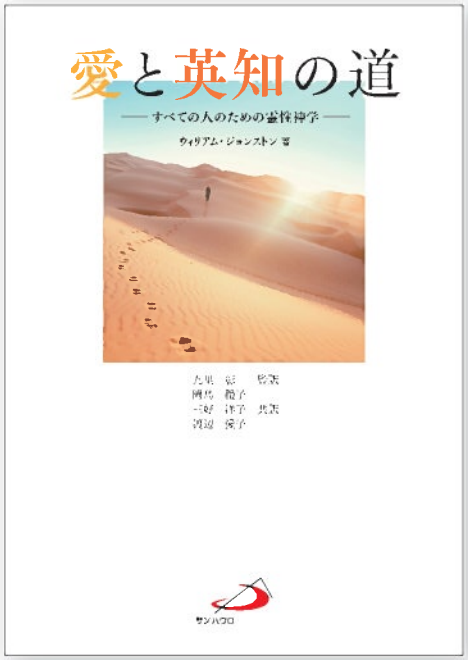
―― すべての人のための霊性神学 ――

ウィリアム・ジョンストン 著

九里　彰　監訳
岡島　禮子　三好　洋子　渡辺　愛子　共訳

西洋と東洋の神秘主義の伝統に通暁した著者が、21 世紀というグローバル化し、「地球家族」となった現代世界のすべてのキリスト者に遺した霊的生活の道しるべ。『すべての人は、聖職位階に属している人も、あるいはそれによって牧されている人も、皆聖性へと召されている。『あなたが聖なる者となること、これが神の望みである』と使徒が言っているとおりである」（『教会憲章』39）。

本書は、十字架の聖ヨハネが 16 世紀に向けてなしたことを、21 世紀に向けて行なおうとする、ささやかな試みです。言いかえると、その目的は、命の水を渇望する人たちへ、観想的な祈りを教えることです。筆者は、主にキリスト信者を念頭に置いて筆を進めますが、真理の探究において私どもと心を一つにしておられる方々にも、本書を勧めています。



第一部　キリスト教の伝統
第1章　背　景（1）
第2章　背　景（2）
第3章　理性 対 神秘主義
第4章　神秘主義と愛
第5章　東方のキリスト教
第6章　愛を通して生まれる英知

第二部　対　話
第7章　科学と神秘神学
第8章　修徳主義とアジア
第9章　神秘主義と根源的なエネルギー
第10章　英知と〈空〉

第三部　現代の神秘的な旅
第11章　信仰の旅
第12章　浄化の道
第13章　暗　夜
第14章　〈愛のうちにある〉
第15章　花嫁と花婿
第16章　一　致
第17章　英　知
第18章　活　動
第19章　社会活動の神秘主義

ウィリアム・ジョンストン　William Johnston S.J. (1925-2010)
北アイルランドのベルファストに生まれる。
イエズス会に入会し、26 歳で来日。
32 歳で司祭に叙階され、以後、英語、英文学、宗教を上智大学などで講じるかたわら、東西の宗教思想、特に神秘主義の研究と普及に尽力。ペドロ・アルペ、トマス・マートン、ダライ・ラマ、永井隆、遠藤周作との出会いを通して、次々と著作を発表。現代に則した霊性探求の先駆者として、世界に広く知られている。85 歳で帰天。

• A5判 • 600頁 • 並製 • 定価 3,400円+税 • ISBN978-4-8056-0064-1　C0016

書籍案内

生きる意味

●キリスト教への問いかけ

清水正之・鶴岡賀雄・桑原直己・釘宮明美　編

A５判・312 頁・2500 円+税

ISBN978-4-87232-100-5

東日本大震災と原発事故によって喚起された「生きる意味」という愚直な問い。その答えを示すことこそが、「宗教」である。グローバル化に伴う経済格差、労働のあり方、宗教の役割など――危機にさらされている人間の救済の道を探る。

――――目次――――

序　「生きる意味への問いかけ」がなされる場をめぐって／鶴岡賀雄
1　東日本大震災と宗教／中下大樹
2　宗教と社会と自治体の災害時協力／稲場圭信
3　東日本大震災に思うこと／佐藤純一
4　脱原発の倫理／久保文彦
5　何のために働くのか／神谷秀樹
6　グローバル化する経済の中の人間／勝俣 誠
7　私たちの社会に希望はあるか？／宮台真司
8　関係の倫理学／清水正之
9　宗教が医療・医学に果たした役割、果たすことが期待されている役割／加藤 敏
10　V・フランクルのロゴテラピー／桑原直己
11　「神の子となる」――カルメルの霊性と共に／★九里 彰★
12　「おかげさま」の言語化と生き方による霊性化／中野東禅
13　エディット・シュタイン『十字架の学問』への道とその霊性／釘宮明美

オリエンス宗教研究所　TEL:03-3322-7601　FAX:03-3325-5322
ご注文は全国のキリスト教書店、オリエンスHP、FAX、ネット書店などへ

2020年のご案内

年間テーマ　手をとりあい、自ら歩み出す

大瀬高司 師

好評の 2019 年の連載「カトリックの信仰を生きた愛国者・ステファノ山本信次郎」に引き続き大瀬高司神父の新連載が始まります。

●近代日本の歩みとカトリック教会
——山本信次郎研究ノートより
大瀬高司（カルメル修道会司祭）

山本信次郎研究で得られた成果から、近代日本のカトリック教会での出来事や人物を取り上げ、これまであまり知られていないエピソードを中心に紹介します。

その他の新連載

●アンジェラスの鐘／加藤美紀（教育学者）
●知恵ある者たちのアフォリズム／加藤久美子（聖書学者）
●かたわらに、今、たたずんで／大野高志（日本基督教団牧師）
●聖歌と賛歌——民衆霊性と多様性から
　杉本ゆり（中世教会音楽研究者）
●新米神父の開拓奮闘記／大西勇史（広島教区司祭）
●いのちの交わりの場——エコロジカルな暮らしのために
　吉川まみ（環境学者）

継続連載

●典礼暦と季節の味わい（応用編）
　柳谷晃子（食文化研究所主宰）

月刊『福音宣教』お申し込み方法

◇郵便局に備えつけの振替用紙にて年間定期購読料を下記口座までお振り込みください。ご入金確認後、発送いたします。

○口座番号：００１７０－２－８４７４５
○加入者名：オリエンス宗教研究所
○ご購読料：７５００円（税・送料込）
○備考欄：「福音宣教～月号から」とご希望の開始月をご明記ください。ご指定がなければ、最新号からお送りいたします。

年間定期購読料（年 11 回、8・9 月合併号）7500 円（税・送料込）一部定価 600 円＋税

オリエンス宗教研究所　〒156-0043 東京都世田谷区松原 2-28-5
Tel 03-3322-7601　Fax 03-3325-5322　https://www.oriens.or.jp/

福者マリー＝ユジェーヌ神父に導かれて

十字架の聖ヨハネの
ひかりの道をゆく

伊従 信子 編・訳

ISBN978-4-88216-372-5　C0195
定価**540**円（税込）
【聖母文庫】287

第2版 好評発売中！

マリー＝ユジェーヌ神父が十字架の聖ヨハネを生き、体験し、確認した教えなのです。ですから、十六世紀の十字架の聖ヨハネの教えは現代の人々にも十分適応されます。また、神の命を伝え、実践的手段を示して聖性の最も高い段階へと導こうとする彼の配慮が伝わってきます。（「はじめに」より）

神と親しく生きる
いのりの道

福者マリー＝ユジェーヌ神父とともに

R. ドグレール / J. ギシャール 著
伊従 信子 訳

ISBN978-4-88216-307-7　C0195　【聖母文庫】246
定価**540**円（税込）209頁

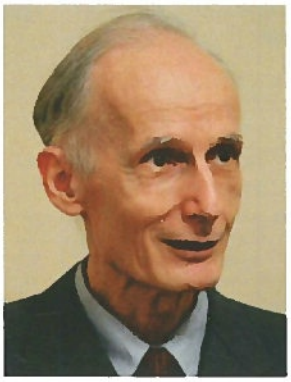
わたしは神をみたい
いのりの道をゆく

マリー＝ユジェーヌ神父とともに

伊従 信子 編・著

ISBN978-4-88216-339-8　C0195　【聖母文庫】268
定価**648**円（税込）281頁

ご注文・お問い合わせ先
聖母の騎士社　〒850-0012 長崎市本河内2-2-1
TEL.095-824-2080　FAX.095-823-5340



クラウス・リーゼンフーバー小著作集

（全五巻）四六版・４３４頁～６２８頁

各巻　本体 3、８００～5、０００ 円+税

著者は日本における中世哲学研究を牽引し、広汎にわたるキリスト教思想史の著述や編集・出版を手がけてきた。宗教家としても、キリスト教信者のみならず信仰に初めて出会う一般社会人と広く向き合い、講座や黙想会などを開いてキリスト教の精神と実践、信仰における超越との関わりを伝えている。人間の自己理解から出発し、聖書と哲学的な理解とを構架して、キリスト教信仰と霊性を現代人にとって生き生きとした形で展開している。講義、執筆活動をとおして西洋古代・中世さらに現代哲学思想をわかりやすく説く。この著作集は４０余年の著述活動による１５０余の小論考からなっており、霊的な信仰理解と人間の経験とを結びつけて互いに支え合うものとして示そうとするものである。

人生の意義の解明と存在への問い。人生をめぐる哲学的・思想史的・人間論的な諸観点のもとで、聖書に基づいて第一根源である神を中心に展開する。

		ISBN 定価（本体＋税）
第1巻	**Ⅰ　超越体験　—宗教論** 宗教の人間論的基礎付けを「意義への問い」という観点から考察した宗教哲学論文集。宗教的理解と経験がキリスト教的精神に基づいて絡み合い、人間の心を考察して全体の根源的な起源へ向ける。全 11 作、434p	9784862852151 3,800 円＋税
第2巻	**Ⅱ　真理と神秘　—聖書の黙想** 日常生活を貫いて人間とかかわる絶対的神秘を、聖書を紐解きつつ多面的な観点から浮き彫りにする。超越との関係を求める人に向けて、宗教的経験を解明する。全 35 作、544p	978-4862852175 4,600 円＋税
第3巻	**Ⅲ　信仰と幸い　—キリスト教の本質** 主の祈り、信条の命題に沿って信仰の全体像を解説。「山上の説教」をとおして人生における艱難辛苦にも焦点を合わせる。十字を切ることの意味など、聖霊の神学と霊性から信仰生活の深みを照らす。全 38 作、628p	9784862852205 5,000 円＋税
第4巻	**Ⅳ　思惟の歴史　—哲学・神学的小論** 古代から中世のキリスト教思想史の考察の上に立脚し、現代における信仰をめぐっての根本的な問いを洞察する。人間と神理解の可能性を新たに拡げて信仰生活の深みに掘下げる。全 41 作、448p	9784862852212 4,000 円＋税
第5巻	**Ⅴ　自己の解明　—根源への問いと坐禅による実践** 信仰との関わりの薄い現代人に向け、自己への問いから発した人生の意義と超越への方向付けを見出す実践的な道筋を示唆する。「今」を中心とする存在論・時間論を展開した最終講義「時間です！」収録。全 35 作、470p	9784862852229 4,200 円＋税

●リーゼンフーバー，クラウス [Riesenhuber, Klaus]

1938 年ドイツ生まれ。1958 年イエズス会入会。1967 年ミュンヘン大学哲学博士。同年来日。1969 年上智大学文学部哲学科専任講師。1971 年東京で司祭叙階。1974 年上智大学中世思想研究所所長(-2004)。1981 年上智大学教授。1989 年上智大学神学博士。国公私立大学で客員・非常勤講師。放送大学客員教授。2009 年上智大学名誉教授。現在は哲学的人間論および宗教哲学などの講座を開講。

知　泉　書　館　〒113-0033 東京都文京区本郷 1-13-2 TEL: 03-3814-6161 FAX: 03-3814-6166
http://www.chisen.co.jp

奥村一郎選集

追悼　奥村一郎師

その時と場所で与えられた役割を
誠実に果たし続けた師が遺す珠玉の名編

四六判・上製・平均 240 頁・各巻とも 本体 2000 円+税

日本の文化の中で福音が豊かに開花することを求めて祈り、思索した奥村一郎師。本選集は半世紀にわたるその膨大な著作、講演等の記録から特に重要と思われるものを選び、テーマ別に集成したものです。豊かな霊性をたたえた祈りの人であり、東西霊性交流など宗教対話のダイナミックな推進者。静謐さと情熱を併せ持つ著者が紡ぎ出してきた言葉の数々は、神と人に真摯に向かう姿を私たちに示してくれます。ときにユーモアを交えたその視座は、日本における福音宣教を願うすべての人々にとっての道標となることでしょう。

第1巻　慈悲と隣人愛　解説・西村恵信
日本文化に影響を与える仏教の光を当てつつ聖書を読み、キリスト教の本質理解に近づく。
カトリックから禅へ／小事と瑣事／禅とキリスト教における霊的修行

第2巻　多文化に生きる宗教　解説・橋本裕明
宗教対話と霊性交流から得られた柔軟な視点から、日本での新たな宣教の可能性を示す。
大いなる贈け——宗教対話／日本人とキリスト教——遠藤文学の魂

第3巻　日本の神学を求めて　解説・小野寺 功
日本の地に根ざす神学、その開花の可能性を福音の原点である相互愛から問いかける。
日本の神学——根源への問い／相互愛／「信ずる」と「愛する」／新しい掟

第4巻　日本語とキリスト教　解説・阿部仲麻呂
関係性を重視する表現が中心となる日本語を手がかりに、ことばと信仰の関係を再考する。
日本人の心とその精神構造／「ことば」から「みことば」へ／聖書と翻訳

第5巻　現代人と宗教　解説・鶴岡賀雄
宗教不在とされる現代、人々が直面する課題にキリスト教はどう向き合っていけるのか。
現代人とキリスト教／偶像の喪失／退屈／「新しい人」としての真人

第6巻　永遠のいのち　解説・八木誠一
生と死、罪と恵み、正義と愛——人間の栄光と悲惨を見極め、永遠のいのちへの道を探る。
嬰児復帰／人間の栄光と悲惨／神は死せり／十字架の秘義／人間と世界と神

第7巻　カルメルの霊性　解説・高園泰子
愛ゆえにすべてを、命さえも失ったイエスを追い求めるカルメル。その霊性の根源に迫る。
アビラのテレジア／十字架のヨハネ／小さきテレーズと東洋的霊性

第8巻　神に向かう〈祈り〉　解説・高橋重幸
東西における祈りの方法論を丹念にたどりつつ、キリスト教の祈りの本質を明らかにする。
考える祈り、思う祈り、愛する祈り／現代における祈りの指導者／祈りとは何か？

第9巻　奉献の道　解説・宮本久雄
すべての人にみずからを与えつくす奉献生活を通して、人間そのものの神秘を見つめる。
清らかな矛盾／世を変えるパン種として／清貧の誓願／現代に生きる修道者の霊性

カルメル会会員、在俗会メンバーの方々には特別割引があります。直接お問い合わせ下さい。

オリエンス宗教研究所　〒156-0043 世田谷区松原 2-28-5
ＴＥＬ：03-3322-7601　ＦＡＸ：03-3325-5322
ホームページ：http://www.oriens.or.jp/

カルメル会の企画案内

カルメル会の標語

Zelo zelatus sum pro Domino Deo exercituum

私は万軍の神、主に情熱を傾けて仕えてきました（列王記上 19：10）

東京 上野毛 霊性センター

黙想企画　＊＊上野毛 聖テレジア修道院（黙想）＊＊
（２０２１年～）

・祭日のミサに参加するために
　　チェックイン午後３時以降可、チェックアウト午前１０時

【聖週間】

聖木曜日から復活祭まで通して参加できます。またどの曜日からでも参加可能です。
　　４月１日(木)夕食～４月４日(日) 朝食 ≪講話なし、各食３付≫

【クリスマス】
　　１２月２４日(金)～２５日(土) 朝食 ≪講話なし、夕食なし≫

・聖書深読黙想会(土曜日１７時～日曜日１６時)　大瀬高史 神父

４月２４日(土)～２５日(日)
５月２９日(土)～３０日(日)
７月　３日(土)～　４日(日)
８月２８日(土)～２９日(日)
１０月　２日(土)～　３日(日)
１１月２７日(土)～２８日(日)
２０２２年
　１月　８日(土)～　９日(日)
　３月１２日(土)～１３日(日)

・《カルメル会聖人に学ぶ黙想会》(水曜日１０時～１６時・昼食付) カルメル会士

　３月１７日　４月２１日　５月１９日
　６月１６日　７月２１日　９月２２日
１０月２０日　１１月１７日　１２月１５日
２０２２年　１月１９日　２月１６日　３月１６日

・一泊黙想会　(土曜日１７時～日曜日１６時)　カルメル会士

３月１３日(土)～１４日(日)今泉健神父
５月２２日(土)～２３日(日)
７月２４日(土)～２５日(日)
９月２５日(土)～２６日(日)
１１月２０日(土)～２１日(日)
２０２２年
　１月２９日(土)～３０日(日)
　３月１９日(土)～２０日(日)

・奉献生活者のための黙想会　（初日１７時～最終日朝食）　カルメル会士
　　８月　１日(日)～１０日(火)
　　８月１６日(月)～２５日(水)
　１２月２７日(月)～１月　５日(水)

・青年黙想会(男女)　３５歳まで(初日１６時～翌日１６時)　カルメル会士
　　２０２１年　３月２６日(金)～２８日(日)
　　２０２２年　３月２５日(金)～２７日(日)

・召命黙想会(男女)４０歳まで(初日１６時～翌日１６時)　カルメル会士
　１１月　５日(金)～７日(日)

・カルメル会召命黙想会(対象男子)（土曜日１６時～日曜日１６時)カルメル会士
　４月１０日(土)～１１日(日)　　２０２２年
　６月１２日(土)～１３日(日)　　２月２６日(土)～２７日(日)
　１０月　９日(土)～１０日(日)
　１２月１１日(土)～１２日(日)

・特別黙想会(初日２０時～最終日１６時)Sr.伊従信子(ノートルダム・ド・ヴィ)
　　６月１８日(金)～２０日(日)
　１１月１２日(金)～１４日(日)

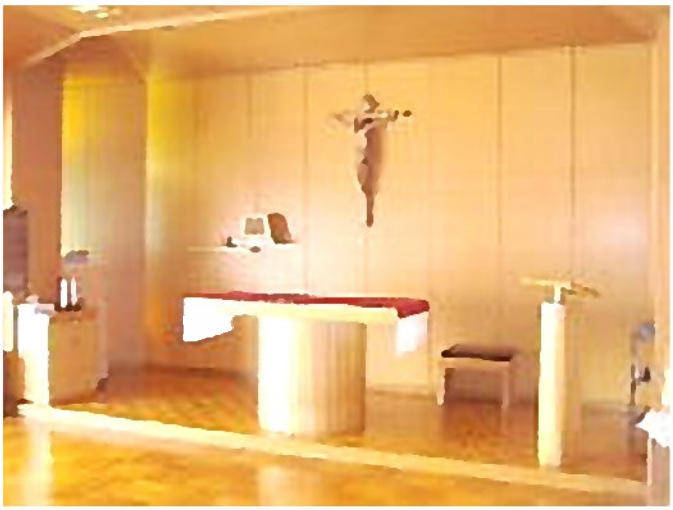
・キリスト教霊性入門(１０時～１６時　昼食付)　松田浩一神父
　　３月１１日(木)　　４月　８日(木)
　　５月１３日(木)　　６月１７日(木)　　７月　８日(木)

＊ 日程、指導司祭は変更される可能性もあります。 お申込みの際には、ホームページ（http://www.carmel-monastery.jp）なども合わせてご覧下さい。
＊ こちらに掲載されている以外の日時にもご利用可能です（グループ、個人いずれも)。お気軽にお問い合わせください。
＊ 間違いを避けるため、お問い合わせはFAX・はがき・Eメール等、文書でお送り頂けますと幸いです。

〒158-0093　東京都世田谷区上野毛 2-14-25
聖テレジア修道院(黙想)
Tel:03-5706-7355　　Fax:03-3704-1789
Eメール：mokusou@carmel-monastery.jp
ホームページ：http://www.carmel-monastery.jp

カルメル青年黙想会

イエスと共に生きる



日　時　：　2021 年 3 月 26 日（金）16 時 ～ 28 日（日）16 時
場　所　：　カルメル会　聖テレジア修道院（黙想）
対　象　：　**青年男女（16歳～35歳まで）**
定　員　：　８名
費　用　：　一般　１０，０００円　　学生　５，０００円
締　切　：　2021 年 3 月 19 日（金）
指　導　：　カルメル会士

※住所・氏名・性別・年齢・電話番号・所属教会名を記入し、ハガキ・ＦＡＸ・E-mail の何れかで下記まで。折り返し、こちらよりご連絡させていただきます。

158-0093　世田谷区上野毛2－14－25
カルメル会　聖テレジア修道院（黙想）
電　話：　０３（５７０６）７３５５
ＦＡＸ：　０３（３７０４）１７８９
E-mail：　mokusou@carmel-monastery.jp

★★★カルメル会召命黙想会★★★

カルメル会の霊性を生きることをとおして教会に生涯を奉げる道があります。
聖テレジアや十字架の聖ヨハネらの教えに培われて、人々に祈りと兄弟的な生活を証ししていく道です。この道に関心を抱き、心に神の呼びかけを感じている方のお手伝いをさせていただきたいと思います。

指導：カルメル会士

対象：カルメル会の召命に関心のある男子

場所：カルメル会聖テレジア修道院（黙想）

日時：2021 年　4 月 10 日（土）～11 日（日）　16 時～翌日 16 時

6 月 12 日（土）～13 日（日）　〃

10 月 9 日（土）～10 日（日）　〃

12 月 11 日（土）～12 日（日）　〃

2022 年　2 月 26 日（土）～27 日（日）　〃

会費：￥5000（3食付き）

＊お問合せ　お申し込み：

カルメル会聖テレジア修道院（黙想）
〒158-0093　東京都世田谷区上野毛 2-14-25
TEL.03-5706-7355　FAX.03-3704-1789
Eメール　mokusou@carmel-monastery.jp

カルメル青年黙想会

イエスの心

日　時　：　2021年5月14日（金）16時 ～ 16日（日）16時
場　所　：　カルメル会　聖テレジア修道院（黙想）
対　象　：　**青年男女（16歳～35歳まで）**
定　員　：　８名
費　用　：　一般　１０，０００円　　学生　５，０００円
締　切　：　2021年5月7日（金）
指　導　：　カルメル会士

※住所・氏名・性別・年齢・電話番号・所属教会名を記入し、ハガキ・ＦＡＸ・E-mailの何れかで下記まで。折り返し、こちらよりご連絡させていただきます。

158-0093　世田谷区上野毛2－14－25
カルメル会　聖テレジア修道院（黙想）
電　話：　０３（５７０６）７３５５
ＦＡＸ：　０３（３７０４）１７８９
E-mail：　mokusou@carmel-monastery.jp

2021年　カルメル会　四旬節講話シリーズ

（テーマ）

向こう岸に渡ろう…パンデミック後の選択

≪YouTube オンライン講演会≫

「カルメル会四旬節講話シリーズ」で検索できます。

https://www.youtube.com/channel/UCUG7JhdLCoCF-tZ6uei5YpA

※ライブ発信ではありません。日程はいずれも掲載する日です。
尚、当日 00：00 から、どなたでもいつでもご視聴になれます。

第 1 回　2 月 21 日（日）中川博道（カルメル会士）
「向こう岸に渡ろう―四旬節：パンデミックの中での過ぎ越し」

第 2 回　2 月 28 日（日）九里彰（カルメル会士）
「人類は新たに生れねばならない―教皇フランシスコの叫び」

第 3 回　3 月 7 日（日）松田浩一（カルメル会士）
「神のいやしを行うイエス・キリストを見つめて
――教皇フランシスコの連続講話『この世界をいやす』についての考察」

第 4 回　3 月 14 日（日）若松英輔
（東京工業大学 リベラルアーツ研究教育院教授）
「同じ舟に乗る者たちとして――『つながり』の霊性を求めて」

第 5 回　3 月 21 日（日）大瀬高司（カルメル会士）
「何も咲かない寒い日――今を問う」

主催：カルメル修道会
お問い合わせ：「四旬節講話係」
reisei@carmel-monastery.jp

宇治カルメル会　黙想会案内
(2021 年度)

【一般のための黙想】　中川博道神父
１泊２日（土曜午後５時～日曜午後４時）
5:30 サルヴェ・レジーナ(修道院)から開始
６/５～６　７/１７～１８
９/１８～１９　１０/３０～３１

【聖書深読】（午前 10 時～午後 4 時）中川博道神父
~~３/６~~中止　６/２６　７/２４　９/４
１０/２　１１/６　１２/１８

【水曜黙想会】（第３水曜日）（午前 10 時～午後 4 時）
３/１７　４/２１　５/１９　６/１６　７/２１
９/１５　１０/２０　１１/１７　１２/１５
（６/２０　７/２１　１１/１７　カルメル宣教修道女会　Ｓｒ．ロサ）
他すべて　中川博道神父

【ゴールデンウィーク黙想会】　中川博道神父
５/１(土)午後５時～５/８(土)午前１０時
参加期間は、全日通しでもどの曜日からでも自由です。

【カルメルの霊性】（午後５時～午後４時）中川博道神父
幼きテレジア　１０/２(土)～３(日)
十字架の聖ヨハネ１２/１１(土)～１２(日)

【奉献生活者の黙想】（午後５時～午前９時）一般可
７/２９(木)～８/７(土)　中川博道神父
８月(日時未定)大瀬高司神父
(決まり次第ＨＰでお知らせします)
９/２０(月)～２９(水)　中川博道神父
１１/８(月)～１７(水)　中川博道神父
１２/２７(月)～１/５(水)　中川博道神父

【待降節黙想会】（午後５時～午後４時）中川博道神父
１２/４(土)～５(日)

【祭日のミサに参加するために】

＊＜聖週間を祈る＞

チェックイン午後４時以降可、チェックアウト午前１１：３０
聖木曜日から復活祭まで通しでどの曜日からでも参加可。(講話なし 食事つき)

＊＜クリスマス＞

１２/２４～２５
チェックイン午後４時以降可、チェックアウト午前１１：３０
(講話なし 食事つき)

－その他皆さまが企画なさったグループ黙想会、個人黙想も歓迎いたします－

☆お申し込みは電話でも受け付けておりますが、できるだけＦＡＸ、はがき、Ｅメールでお名前と連絡先を御記入の上、お申込み下さい。お電話はなるべく午前９時～午後５時の間にお願い致します。受付が休みの場合はその場ですぐにお返事できませんので、お手数でも後日改めてお問い合せ下さる様にお願い致します。

〒611-0002　京都府宇治市木幡御蔵山 39－12
宇治カルメル会　聖テレジア修道院　（黙想）
Tel　0774-32-7016　Fax　0774-32-7457
E-Mail:teresiauji@mountain.ocn.ne.jp
http://www.carmeluji.sakura.ne.jp/

キリスト教放送局 **FEBC** 2020.10〜2021.3

2020年秋冬 番組案内

AMラジオ放送 **AM1566kHz** 毎夜9:30〜〈全国放送〉

インターネット放送 **www.febcjp.com**〈毎日更新〉

日

夜9：30〜

全地よ 主をほめたたえよ

主日礼拝取材番組

[第1] 日キ教会 高知旭教会

[第2] 福音ルーテル 神水教会

[第3] 日基教団 久万教会

[第4] 日基教団 中標津伝道所

[第5] 各地の教会

[第2〜5] 夜10:27〜

神からのメッセージ

グレゴリオ聖歌

橋本 周子

聖グレゴリオの家 宗教音楽研究所所長

月 火 水 木 金

[月〜金] 夜9:30〜

FEBC TODAY ―今日の聖書・今週の讃美歌―

恵子の郵便ポスト FEBCメイン・パーソナリティー 吉崎 恵子

夜9：48〜

神父さま、こんなこと聞いてもいいですか？(再)

百瀬文晃 カトリックイエズス会司祭

お相手・吉崎恵子

夜9：47〜 再開

幸福宣言 ―主イエスの山上の説教に聴く

竹森満佐一 日本基督教団元牧師

夜9：47〜 再開

嘆きに応える神の御言

金田聖治 日キ教会 上田教会牧師

新 夜9：47〜

Session ―イエスのTuneに合わせて

早矢仕宗伯 「NCAMイエスの風」牧師

塩谷達也 ゴスペルシンガー

長倉崇宣

夜10：14〜

Echo of Voices

長倉崇宣

新 夜10：14〜

マイ・プレイリスト

夜10：14〜

主に向かって歌おう

飯 靖子 日基教団霊南坂教会 聖歌隊指揮者・オルガニスト

夜10：14〜

ザ・ストーリー ～一冊の本に込められた思い

服部みぎわ

夜10：28〜

御足の跡を

小池与之祐 日基教団 神の愛 キリスト伝道所牧師

夜10：28〜

FEBC Sprout！ 長倉崇宣

新 夜10：28〜

イエスから始めよう

夜10：28〜

聖書を開こう

山下正雄 RCJメディア ミニストリー代表

[第1] 夜9：37〜 再開

イエスとの対話の旅 ―現代霊性神学講座

中川博道 カトリック・カルメル会宇治修道院司祭

[第1] 夜10：25〜 再開

外からの「声」 ―FEBC HANGOUT!

新 [第2] 夜9：47〜

「時のしるし」を求めて コロナ時代の教会の模索

[第3・4] 夜9：37〜

闇の中に輝く「獄中書簡」(再)

小林和夫 ホーリネス 東京聖書学院教会牧師

[第3・4] 夜10：20〜

Meguの CCM insight!

土

夜9：30〜

旧約聖書のこころ―詩編―(再)

雨宮慧 カトリック・東京教区司祭、上智大学神学部名誉教授

夜9：53〜

Kishikoのひとりじゃないから

[第1〜3] 夜10：04〜

コーヒーブレイク・インタビュー

インタビュアー 吉崎 恵子・長倉崇宣

[第4・5] 夜10：04〜

交わりのことば 聖書の豊かさ

夜10：31〜

黙想のとき(再) 主よ、共に宿りませ

安保ふみ江

諸所の企画案内

真命山 霊性交流センター
ノートルダム・ド・ヴィ
慈しみ深き会

※注）
諸所の企画記事は集約・編集しています。
記載には注意を期しておりますが、
詳細は各問い合わせにご照会下さい。
よろしくお願い致します。

真命山　２０２１年 ― 祈りの集いのご案内

「祈りの実り：イエス様と共に、イエス様のように生きること」

毎月第２木曜日（１０:００～１５:００）

指導者　フランコ神父

１月１４日　柔和な師イエスに習う(マタイ１１・２９)
２月１１日　謙遜な師イエスに習う（マタイ１１・２９）
３月１１日　十字架を背負っているイエス様に従う（ルカ１４・２７）
４月　８日　神の国でキリストと共に食事の席に着く（ルカ２２・３０）
５月１４日　給仕するイエス様に学ぶ（ルカ２２・２７）
６月１０日　「私があなたがたを愛したように…互いに愛し合いなさい」（ヨハネ１４・３４）
７月　８日　祈るイエス様に習う（ルカ１１・１）

＊　＊　＊

９月　９日　「病気や患いを癒された」イエスの模範に従う（マタイ４・２４）
１０月１４日　「福音を宣べ伝えた」イエスの模範に従う（マタイ４・２４）
１１月１１日　ナインの母親を見て、憐れに思ったイエスと共に（ルカ７）
１２月　９日　「行って…場所を用意したら、戻って来て、あなたがたを私のもとに迎える」（ヨハネ１４・３）

※個人またはグループでの黙想会
研修会も歓迎いたします（要予約）

申込先
真命山　諸宗教対話センター
865-0133 熊本県玉名郡和水町蜻浦1391-7
e-mail: shinmeizan@gmail.com
www.shinmeizan.com
tel:0968-85-3100

講話と祈りのつどい

コロナウイルス感染の広がりにより、

予定しておりました「講話と祈りの集い」の開催を

現在保留にしております。

状況の推移を見守りながら開催の有無を

当会のHPに掲載いたしますので、

そちらをご覧いただければ幸いです。

担当　中山真里

＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊

ノートルダム　・　ド　・　ヴィ
〒177-0044　練馬区上石神井４－３２－３５
TEL(03)3594-2247　FAX(03)3594-2254
e-mail　notredamedevie.japan@gmail.co

念祷の集い

～沈黙の内に神を求めて～

場所：イグナチオ教会岐部ホール404号室

時間：以下の木曜日
　　１４：００～１６：００(講話と念祷)
主催：慈しみ深き会

指導：九里（くのり） 彰 神父（カルメル修道会）

中止のお知らせ

2021年度予定

~~1月21日（木）　3月25日（木）~~　**中止**

予定しておりました「念祷の集い」は教区よりの
指示により、再度中止となりました。
４月以降については、再度紙面にてお知らせ致します。

連絡先：篠原 三恵子
Tel:042-473-6287
e-mail: mieko.shinohara@gmail.com

※各黙想会内容･日程等、 詳細については各問い合わせ先に、 ご確認ください。

朝日カルチャーセンターの

通信深読「聖書に親しむ」へのご案内

「通信深読」は、「聖書深読黙想会」にさまざまな理由で参加できない方々のために考案されました。参加を希望される方は、下記の朝日カルチャーセンター通信講座課へお申し込みください。手続きがすめば、次のような手順でこの「通信深読」が行われてゆきます。

ファースト・ステップ

「個人素読」：毎月、朝日カルチャーセンターから指定された聖書深読箇所を、ひとりで繰り返し読み、み言葉を自由に黙想します。

セカンド・ステップ

「個人素読」の報告書作成：送られてきた用紙（B5 用紙）に、深読箇所で特に印象に残った節を二三ヶ所選び、番号と○や△や×などの記号を記し、「全」には、全体の印象を表す、ご自分の体験と結びついた具体的な名詞を、「照」にはみ言葉を実践する決意を示す動詞を書き込みます。さらに「所感」や「近況報告・質問」の欄に、ご自由にご自分の考えや質問等を記入します。

サード・ステップ

（参加者から朝日カルチャーセンターへ送られた「個人素読」の報告書は、参加者全員のものがまとめられ、講師へ送られます。）

講師が各参加者の「個人素読」の報告書に対しコメントし、深読箇所の「解読」（A４２枚）と共に、朝日カルチャーセンターへ送り返します。

フォース・ステップ

コメントされた全員の「個人素読」の報告書（「近況報告・質問」はプライベートなこともあるので、削除されます）と「総合素読表」、そして講師の「解読」が冊子となり、各参加者に、センターから送られます。

＊費用：6 ヶ月（20,360 円）。納入は 4 月、7 月、10 月、1 月。継続の場合 19,130 円。

＊講師：九里彰師（奇数月）、今泉健師（偶数月）

＊問い合わせ：〒163-0278　東京都新宿区西新宿 2-6-1 新宿住友ビル

私書箱 21 号　朝日カルチャーセンター通信講座課

Tel:０３－３３４４－２５２７（直通）

『霊性センターニュース』
＊郵送お申込みのご案内＊

ご郵送は、基本的に１月から 12 月までとなります。
途中からお申し込みの場合は、お申し込みの翌月から 12 月までとなります。
例：6 月申込の場合は、7 月号~12 月号（但し 8 月号は休刊）となり、
5 冊となります。　ご希望の月数×250 円程度の献金を下記口座へお振込み頂ければ、幸いです。

郵便番号口座：　００９１０－６－３３３１８４
加入者名：　カルメル霊性センターニュース事務局

なお、振替用紙の通信欄には、「郵送申込」（何月から何月まで）、また氏名、郵便番号・住所、電話、Fax 等ご明記ください。
また、郵送お申込とは別に、ご献金もお願いしております。
その場合は、「献金」とご記入お願い致します。
何かご質問等があれば、事務局の方にご連絡ください。

〒611-0002　京都府宇治市木幡御蔵山 39-12
カルメル会宇治修道院　「霊性センターニュース事務局」
Tel:0774-32-7456
Fax:0774-32-7457
reisei@carmel-monastery.jp

男子跣足カルメル修道会のホームページ

http://www.carmel-monastery.jp
Google：「カルメル会」で検索できます

男子跣足カルメル修道会
Order of Discalced Carmelites

霊性センターニュース掲載の情報も載っています

あとがき　・・・つぶやき・・・

四旬節第一主日のテーマは、毎年、主が荒れ野で誘惑を受けられることです。

先日、説教の準備のために、雨宮慧師の「主日の聖書解説〈B年〉」を拝読していて、あらためて考えさせられました。

> 「『誘惑』と『試練』は聖書では同じ言葉で表します。誘惑といえば『心を迷わせて、悪い方に誘い込むこと』ですが、試練といえば『信仰の程度をためして人を鍛えること』を指します。サタンは、イエスを誘惑しますが、イエスはそれを試練に変え、我々に歩むべき道を示しました。」(p.45)

この日の第一朗読は、ノアに告げられた、洪水が二度と起こることなく「肉なるものをすべて滅ぼすことは決してない」という神からの一方的な契約の確認でした。すなわち、どんなことになっても、神がわたしたちを見捨てることはないという約束の下でわたしたちは生きていることの再確認でした。

これが前提であることが腑に落ちた時、自分が二五歳で修道院に来た時、それを見送ってくださったドイツ人宣教師が餞別のことばとして残してくださった言葉がよみがえってきました。

> 「いいですか、これを覚えておいてください。これから先、生きていく世界で、あなたの思うようにならないことがあればあるほど、あなたにとってはいいことになるのです。そして、『何をしてくれますか？』という問いは、ここに置いて行きなさい。どこに行っても、『自分は、今、ここで、何を問われているのか』を聴きながら生きていきなさい。」

思うようにならないことがある時、自分がつぶされると思うようなことがある時、そこで神が何かを問いかけておられると信じるなら、試練となってより磨かれていきます。そこで、自分の方針や望み、自分がやりたいようにやろうとして、我を通しつづけ、不満と怒りに捕らわれてしまう時、まさに誘惑となり、神を見失い、自分の召命（呼び掛けられていること）を見失ってしまいます。

このパンデミックの中をただただ不安と不満に陥るか、何が問われているのかを聴きつづけるかによって、試練にも、誘惑にもなる現実の前に立たされていることをあらためて意識させられた四旬節の始まりでした。

Fr.中川博道 o.c.d.

DECOR
REGINA
CARMELI